

9. 循環器系の疾患

文献

加藤典博, 加藤久仁之, 細井義行. ALTA (硫酸アルミニウムカリウム・タンニン酸) 硬化療法と痔核結紮切除術の併用療法における乙字湯の効果. 医学と薬学 2008; 60: 747-53. 医中誌 Web ID: 2009068979 [MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

痔核の最新治療である ALTA 硬化療法への乙字湯の併用による臨床的有用性への評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

ふるだて加藤肛門科・外科クリニック、細井外科 2 施設

4. 参加者

2008 年 3 月～9 月に上記 2 施設で、Goligher 分類 III、IV 度痔核で、ALTA 単独療法あるいは ALTA・LE (結紮切除術) 療法を実施した 20 名

5. 介入

Arm 1: ALTA 単独療法あるいは ALTA・LE (結紮切除術) 療法実施に加え施術翌日より乙字湯 (3g)、1 日に 2 回、食前内服を 4 週間 10 名

Arm 2: ALTA 単独療法あるいは ALTA・LE (結紮切除術) 療法 10 名

両群とも疼痛時に非ステロイド性抗炎症剤 NSAIDs を頓服として使用

6. 主なアウトカム評価項目

乙字湯投与 1, 2 および 4 週目に自発痛、排便時痛、血中 CRP、術後 2 週目までの鎮痛剤の使用

7. 主な結果

血中 CRP 値は投与 1 週目、排便時痛は投与 2 週目、自発痛は 1, 2 週目に、乙字湯投与群では非投与群にくらべて有意 ($P<0.05$) な効果が観察された。鎮痛剤の使用率では、非投与群の中央値が 10 錠であったのに対し乙字湯群では 2 錠であり、抑制傾向が認められた ($P=0.09$)。ALTA による硬結出現率、痔核縮小率では両群に差はなかったが、痔核の硬結の残存期間は乙字湯投与群 (11.3 週) が非投与群 (15.3 週) に比べ、有意に短縮していた ($P<0.05$)。

8. 結論

痔核の最新治療である ALTA 硬化療法、LE 併用療法時の疼痛管理のひとつとして乙字湯を用いることで、術後の自発痛、排便痛の抑制と持続する硬結の改善が認められる。

9. 漢方的考察

乙字湯の効果発現が一般的な漢方薬で謳われる緩徐なものではなく迅速なものであることが示された。便秘の抑制に関しては、大黄の瀉下効果と当帰の潤腸効果が主体と考えられるが、術後の疼痛軽減作用への漢方医学的考察は本論文中には見当たらない。

10. 論文中的安全性評価

乙字湯による副作用発現は本研究では認められなかった。

11. Abstractor のコメント

罹患人口が多く、症例によっては激的な症状を呈し、社会生活に大きな支障をきたす痔核に対する最新の西洋医学的治療である ALTA 硬化療法に、痔核治療としては歴史のある乙字湯を併用した際に、施術後の疼痛の軽減と硬結残存期間の短縮という明確な効果を証明した論文であり、臨床的価値は高い。本研究は、痔核の治療に単独で効果があることが古くから知られている乙字湯の現代最新医療との東西融合の可能性を示したものであり今後の痔核治療の方向性に良い影響を与えると評価できる。

乙字湯は、無菌性炎症の抑制や組織障害を軽減するタンニン酸の作用を増強する効果を有する可能性があり、今後の作用機序の解明に期待したい。

12. Abstractor and date

後山尚久 2010.6.1, 2013.12.31